

借入金について

借入金制度会計では次のように定義しています。

主として借用証書や手形を差し入れて、他人より金銭を借り入れたとき、その債務の発生及び消滅を処理する勘定で、返済期限の長短により、通常1年以内に返済すべきか否かによって短期借入金と長期借入金に区別されています。

資金会計理論では次のように定義しています。

- ① 収益の代わりに性格を持った資金
 - ② 借入金の発生は収益の発生であり借入金の返済は収益の消滅
- (小生のセミナーでは利益の先取と説明しています。)

資金が不足 = 収益が不足

資金が不足するから代わりに収益である借入金が発生する。

財政状態及び経営成績の良し悪しは、資金繰りの良し悪しで判断するものです。決して売上高や経常利益の高伸び率で判断するものではありません。

資金不足の原因は？

資金不足の原因は勘定科目にあり、大別すれば2種類あります。

- ① 損益資金の過不足
- ② その他資金の過不足

その他資金の過不足には3種類あります。

- ・ 固定資金の過不足
- ・ 売上仕入資金の過不足
- ・ 流動資金の過不足

損益資金についていえば、過の状況は黒字、不足の状況は赤字。

当然、過の状態が良い財政状態になります。

不足の状態は早急に改善する必要があります。(当事務所に改善する為のプログラムとして経営計画方針書セミナーがあります。関心のある方はFAX 又はメールでお知らせ下さい。)

その他資金については、過不足の状態を短絡的に良い財政状態とか悪い財政状態と判断することはできません。

しかし、「資金バランス」が崩れているのですからなんらかの方法に

よって「資金バランス」を改善する事が必要になります。

ほとんどの場合「資金バランス」を取る手段として、収益の代わりに性格を持った資金である借入金が発生する事になります。